

第8回 牧田中医学セミナー

演題： 鍼灸治療による認知症対策、フレイル対策の可能性を探る

～ 今こそ羽ばたけ！21世紀の志ある鍼灸師達よ ～

学校法人後藤学園・中医学研究所 所長

兵頭 明

【抄録】

一、鍼灸治療によるフレイル対策

健康長寿の実現、健康寿命の延伸を目的に開発された三焦鍼法は、宗気・中気・元気の角度から総合的に内臓の機能低下(虚証)を改善することにより、フレイル対策に対する1つの有力な介入法となることが大いに期待される。さらに、鍼灸治療により内臓の機能低下(虚証)を改善することにより精神・心理機能、身体機能、ADLの改善をはかるという考え方と方法は、フレイル・サイクルを解決する介入法の1つとしてその活用が期待される。

また、醒脳開竅法により脳血管障害の後遺症を軽減させ、ADLの改善をしっかりとほかせることが、どのようにフレイル対策につながるのか、国が推進しようとしている「健康寿命の延伸」(2020年までに1年以上延伸が国の目標)に対してどのように貢献ができるかを一緒に考えてみたいと思います。

二、三焦鍼法の認知症治療への応用

三焦鍼法の認知症の人に対する応用の仕方を例示すると、痛みを伴う者には痛みの緩和をはかり、必要に応じてADLの改善(+陽明経排刺)、嚥下の改善(+風池、天柱、完骨)、失語の改善(+金津・玉液)、尿もれ・排尿障害の改善(+中極)、抑うつ症の改善(+神門、太衝)、易怒・易興奮性(+太衝)や睡眠障害の改善(+四神聡)、骨粗しょう症(+懸鐘)や難聴の改善(+聴宮、翳風)、便秘の改善(+天枢)などを同時にはかるとよい。

三、今後の役割と可能性

鍼灸治療はフレイル対策、認知症対策における1つの有力な介入法となることが大いに期待される。高齢化に悩む諸外国は日本がどのように超高齢社会に対応するか、特にフレイルに対応して健康寿命の延伸を図るかに注目をしているという。統合医療の視点にたった日本独自のフレイル対策、認知症対策のモデル・プログラムを構築し、健康長寿の実現、健康寿命延伸のための総合的な成果を世界に発信していきましょう。